

令和6年度 学力向上指導改善プラン

母子小学校長 阿部 恭大

学校教育目標				4月		2～3月		
推進主体				学力向上に向けての重点的な目標		年度末評価		
学力に関する前年度の状況・経年の課題等				(指標となる数値等)		(今年度の成果と来年度に向けた課題等)		
						評価		
学 力 の 状 況	全国学力・学習状況調査結果の状況(国語、算数・数学に關する質問調査の結果も含む)	国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>○全校生によるピポリアルトルや教職員によるブックトークにより図書室や移動図書館の利用率が上がっている。</li> <li>○週1回の漢字アタックの正答率は30%が9割だった。</li> <li>●しかし、漢字の定着には6割から割と個人差がある。</li> <li>●書く活動を全学年意識して取り入れているもの、語彙が少ない児童が多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○書く・話す活動の充実</li> <li>○言語力の向上</li> <li>○読書活動の充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「横線となる部分」を明確にして文章に書いたり話したりすることができる。</li> <li>・漢字や語句の意味などのテストにおいて80%以上の正答を目指す。</li> <li>・家庭での読書を含め、年間100冊以上の読書量を目指す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業内で自分の考えを書く場面を積極的に取り入れ、自分の考えをまとめる機会を作る。また、文集やポスター作りなどを通じて相手意識をもって書くことができるようにする。</li> <li>・「めあて」や「ふり返し」を教科や特別活動で行い、全校生の前で意見を発表できる機会を設ける。</li> <li>・「国語を中心に」教科と各部分を見つけて発表ができるようにする。</li> <li>・学年に応じて図書やインターネットから情報を集め、必要な情報を取り出してまとめる活動を取り入れる。</li> <li>・毎日の授業や宿題や授業を書く機会を設け、週1回の漢字アタックで成果を確認し定着を図る。また、読書やタブレット端末を有効的に使い、語彙を増やす。</li> <li>・ピポリアルトルやブックトークの活動を継続し、母子家庭読書の日を設定することにより、読書活動や読書内容の充実にも努める。</li> </ul>		
		算数・数学	<ul style="list-style-type: none"> <li>○算数でのひとり学習やおたずねの取組により考える力が伸びてきている。</li> <li>○朝の計算アタックでは、週に1回のドリルパークを加え継続することで、個人差はあるが四則計算などの計算力が伸びてきた。</li> <li>●横線となる部分を選ぶことや、記述を要するような説明問題が弱い傾向にある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○基礎基本となる計算力(四則計算)のさらなる向上</li> <li>○ひとり学習の工夫</li> <li>○算数での書く力を伸ばし、ホワイトボードや板書だけでなく、タブレット端末を利用し「おたずね(説明)する力を高める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・週3回以上の計算アタックの中にドリルパークを加え、計算力の定着と基礎学力の向上を図る。朝休みや放課後の時間を活用し個別指導を行い、算数のまとめテストの正答率を80%以上に高める。</li> <li>・毎日算数のひとり学習に取り組み、授業の積み重ねと共に、大したノート作りをめざす。</li> <li>・「おたずね」を通して学びを深めていく。また、大切なことを板書に残し、学びの質を高める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・計算アタックでは記録をグラフで見える化することにより、自分で伸びを実感しさらにやってみようとする意欲につながるようにする。また、書き手部分を繰り返しに応じた問題作りなど、個別最適化を目指して続ける。</li> <li>・毎日の授業や宿題や授業を書く機会を設け、週1回の漢字アタックで成果を確認し定着を図る。また、読書やタブレット端末を有効的に使い、語彙を増やす。</li> <li>・ピポリアルトルやブックトークの活動を継続し、母子家庭読書の日を設定することにより、読書活動や読書内容の充実にも努める。</li> </ul>		
	定期テスト、単元テストなどによる状況(各教科)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○休み時間や放課後の時間を利用して、学力補完を行うことで個別最適化の学びにつながっている。</li> <li>●児童一人ひとりの「つまずき」を確認し、きめ細やかな指導を行う必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○個別指導の充実</li> <li>○漢字や計算等の基礎基本の定着</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テストの誤答した部分を中心に個別支援を行い個に応じた理解を目指す。</li> <li>・漢字や語彙力四則計算等の基礎基本の定着を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・放課後や休み時間等を利用して、弱い部分の補充や漢字や計算の基礎基本の定着を行う。</li> <li>・漢字アタックや計算アタックで既習事項の確認を行う。</li> </ul>			
	授業等からうかがえる状況(各教科)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○どの教科でもめあてやふりかえりを行い、行事等でも活かされるなど定着している。ほとんどの児童が算数を楽しんでいる。</li> <li>●自分の意見はもっているが、体験や人と会う経験が少ないため集まりが少ない。また、相手の意見に付け加えたり、話し合いを家のみで済ませている児童が多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○算数のガイド学習を中心に、他教科や特別活動でもガイド学習を活かした授業を行う。</li> <li>○わかる楽しさや充実感が得られる授業づくり</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・めあてに沿ったふりかえりができるように、めあてを意識したおたずねを行う。</li> <li>・児童アンケートで「授業はよくわかる」「算数は楽しい」の割合を90%以上にする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教師の出場により、めあてや既習事項を確認し、子どもたちでできるように「おたずね」等を活用する。</li> <li>・既習事項の場外物活用する。</li> <li>・算数の授業で特別活動や大型に、本時の本題に通り適切なふりかえりを含めて時間内に終わるようにする。</li> <li>・他教科や特別活動でもガイド学習を取り入れる。</li> </ul>			
	学習能力・生活に習慣等	<ul style="list-style-type: none"> <li>○全国学力・学習状況調査の質問の状況</li> <li>○学校評価などのアンケート調査による児童・生徒の状況</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学習意欲・生活習慣については良好と判断できる。</li> <li>【100%だった項目】</li> <li>・お家の人に学校や友だちのことを話している。</li> <li>・友だち関係に満足している。</li> <li>・朝食を食べている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○家庭における学習習慣及び生活習慣の定着・向上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭学習の習慣化、規則正しい生活のリズムが定着するよう子どもたちを指導し、進捗等が家庭に発覚していく。</li> <li>・生活リズムを整え計画的な学習習慣を定着させる。また、情報モラルの授業を今後も続け、タブレットの正しい使い方をさらに深めていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学級遊びや学級通信、家庭学習の手引き等を活用し懇談や家庭訪問等で保護者に啓発していく。また、保護者との連携をとっていく。</li> <li>・保護指導や保護観察、保護の授業、学級通信等での生活習慣や健康に関する情報発信し啓発していく。情報モラルの授業を今後も継続していく。</li> </ul>		
	授業改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主体的・対話的で深い学びを目指した授業改善</li> <li>・ICT機器を効果的に活用(クラウド環境を活かした授業実施等)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自分の話を伝える場、自分の話を聞いてもらえる場を大切にしていける必要がある。</li> <li>○計算アタックにて取り組んでいるドリルパークの学習を通して、算数の基礎・基本的な学習が充実してきている。</li> <li>○タブレット端末を各教科・各領域の学習に活用している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○スピーチや話し合い場面の充実</li> <li>○基礎学力の向上⇒個別最適な学習の充実</li> <li>○思考力・判断力・表現力の向上⇒協働的な学びの充実</li> <li>○情報活用力、プログラミング思考の向上</li> <li>・タブレット端末の活用</li> <li>・プログラミング教材の活用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「おたずね」を考えながら聞く力を高める。</li> <li>・(ドリルパーク、デジタル教科書を活用し、漢字の定着、計算力を向上させる。</li> <li>・オクリンク、ムーブメントを活用し、算数の授業における「おたずね」の活性化等、表現力の向上させる。</li> <li>・タブレット端末を効果的に活用できるように、情報活用力を育む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スピーチや話し合いの場面を充実させ、工夫していく。</li> <li>・朝の学習にて、ドリルパークを活用する。</li> <li>・授業の中に「オクリンク」や「ムーブメント」を活用する。</li> <li>・タブレット端末を効果的に活用していく。</li> </ul>		
校内研究・研修	<ul style="list-style-type: none"> <li>校内研究の状況</li> <li>校内研修の状況</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●今までの算数科の研究を引き継ぎながら、「書く力を伸ばす」「教師の出場」や「書く(描く)」ことに取り組む必要がある。</li> <li>●子どもたちの深い学びをめざした「力の育成」をテーマに沿って、講師を招聘し、授業力の向上を図る必要がある。</li> <li>●ICT機器の活用方法、教師の適切な出場について授業実践研修を継続して行う必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○校内研究の充実とガイド学習の工夫と発展</li> <li>○子どもがつくる算数科学習</li> <li>○共同学習者の入り方と連携</li> <li>○ガイド学習を活かした授業研修</li> <li>○ICT機器を活用した授業実践、および研修</li> <li>○教師の出場を活かした授業実践</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前年度の全国へき地教育研究大会での学びを生かし、「子どもたちの深い学びをめざした力の育成」に沿った研究活動をさらに推進する。</li> <li>・算数を中心にどの教科でも「おたずね」を通して主体的な学び「対話的な学び」「深い学び」の視点で授業改善をすすめる。</li> <li>・【目1】100%以上ICT機器を活用した授業や朝の会(スピーチでの活用)等を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全員が年間3回以上は授業公開を行い、ガイド学習の発展と教師の出場や「板書(児童の表現力)」「教材研究」などの課題克服に向けた取り組みを行う。</li> <li>・「おたずね」を通して、授業が深まるように、どの授業でも意識し、部分的ガイド学習を取り入れるなど、学びの向上に取り組む。</li> <li>・タブレット端末を取り入れた授業の工夫</li> </ul>			
家庭・校種間連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>家庭・地域等の状況</li> <li>小・中における教科連携等の状況</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学校・学級便りや学校HP、学校地域運営協議会、育友会全体会等により、有効な情報発信を継続している。</li> <li>●今まで取り組んできてきたが、より一層、地域人材を活用し、連携を図りながら一体となって進めていく必要がある。</li> <li>○相互の研究発表への参加や幼小中連絡会、出前授業の取り組みを通して児童生徒の理解を促し連携が密になっつつある。</li> <li>●幼小中連携において決定した校区の目指す子供像(みんな育てよう)を具体化・活用していく方法を探っていく必要がある</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学校だよりや学年通信、また学校HP等を活用した子どもたちの様子の発信。また、学校地域運営協議会、育友会全体会等での子どもたちの様子の情報共有</li> <li>○さらなる地域人材の発掘、整備</li> <li>○幼稚園、小学校、中学校の11年間の連続性を共有した学校間連携の推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「週1回の学級通信の作成、月1回の学校便り、HPで子どもたちの様子を掲載する。各学年、年1～2回小規模校を活かした交流を行う。</li> <li>・通信を通して学校や学級、学習の様子、行事の案内、準備物、1週間の予定など詳細に発信し、各家庭での理解を促すように努める。</li> <li>・活動の意義を伝え、地域で仕事をしている方や学校地域運営協議会などと連携を密にし、活動に対する考え方を共有する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・通信を通して学校や学級、学習の様子、行事の案内、準備物、1週間の予定など詳細に発信し、各家庭での理解を促すように努める。</li> <li>・活動の意義を伝え、地域で仕事をしている方や学校地域運営協議会などと連携を密にし、活動に対する考え方を共有する。</li> </ul>			